

北区

中小企業の景況

令和元年 10月～12月期



音無親水公園 雪景色
(第6回観光写真コンテスト入賞作品)

Contents

- 1 都内の中小企業の景況
- 2 北区の今期の特徴点
- 3 ・製造業
- 6 ・小売業
- 9 ・サービス業
- 11 ・建設業
- 22 中小企業景況調査 比較表と転記表
- 33 調査の概要

コラム

- 13 日銀短観
- 14 全国の景況
- 15 「東京都」と「北区」の企業倒産動向について

特別調査

- 16 「2020年（令和2年）の経営見通しについて」



City of Kita

北区地域振興部産業振興課

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

北区の今期の特徴点

好調 ← 普通 → 不調

| | A | B | C | D | E | F | G |
|-------|------|-------|--------|---------|---------|---------|-------|
| 製造業 | 20以上 | 19~10 | 9~0 | -1~-10 | -11~-20 | -21~-30 | -31以下 |
| 小売業 | 10以上 | 9~0 | -1~-10 | -11~-20 | -21~-30 | -31~-40 | -41以下 |
| サービス業 | 15以上 | 14~5 | 4~-5 | -6~-15 | -16~-25 | -26~-35 | -36以下 |
| 建設業 | 20以上 | 19~10 | 9~0 | -1~-10 | -11~-20 | -21~-30 | -31以下 |

※本調査は季節調整済DI（修正値）を利用しており、文中のDIとは、これを指します。
 ※コメント中における2期分のDI値は（前期→今期）を表す。

製造業



業況DI ($\Delta 9.1$) は前期比 3.1 ポイント減と悪化幅が幾分拡大した。全都 ($\Delta 9.0$) との比較ではわずかに全都を下回った。売上額、受注残、収益はともに前期並の減少幅で推移した。販売価格はわずかに上昇に転じたが、原材料価格は上昇幅が若干拡大し厳しさが強まった。資金繰りは苦しさが多少強まり、借入難易度は容易な状況となった。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は前期から 1.7 ポイントの減少となった。

サービス業



業況DI ($\Delta 17.9$) は前期比 4.0 ポイント増と多少持ち直した。全都 ($\Delta 2.6$) との比較では21期連続して北区が下回っている。売上額は前期並の減少幅で推移したが、収益はかなり改善した。料金価格は大幅に上昇を強めたが、材料価格も大きく上昇し厳しさが強まった。資金繰りと借入難易度はともに苦しさが大きく強まった。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は前期から 2.5 ポイントの減少となった。

小売業



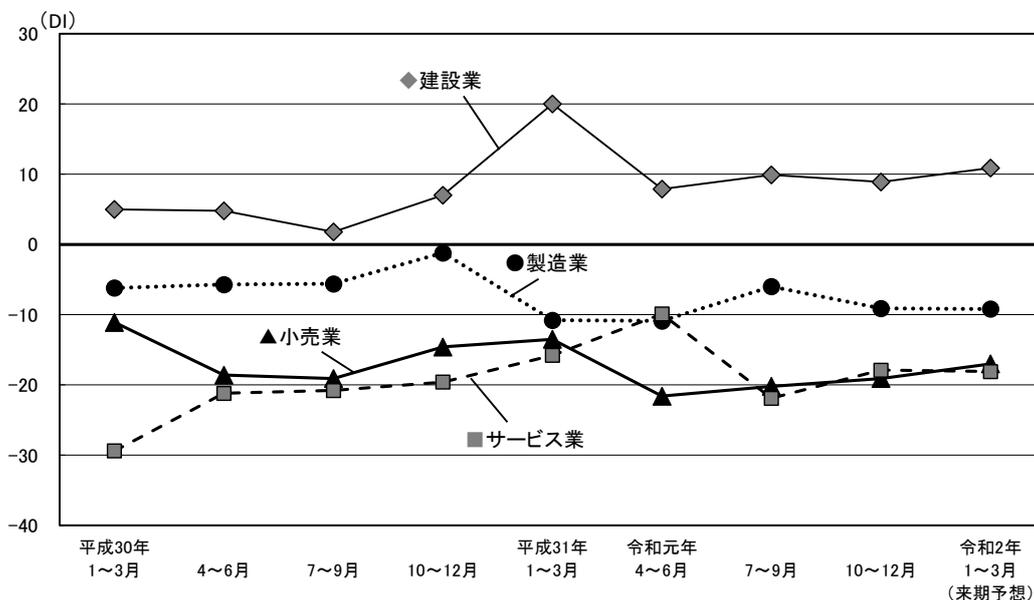
業況DI ($\Delta 19.1$) は前期比 1.1 ポイント増でほぼ前期並みの悪化幅で推移した。全都 ($\Delta 18.8$) との比較では北区がわずかに下回っている。売上額は幾分減少を強め、収益は前期並の減少幅が続いた。販売価格は上昇幅が幾分縮小し、仕入価格は上昇が多少強まった。資金繰りは前期同様の厳しさが続いたが、借入難易度は苦しさが若干和らいだ。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は前期から 7.1 ポイントの減少となった。

建設業



業況DI (8.9) は前期比 1.0 ポイント減と前期同様の水準が続いた。全都 (13.6) と比較すると下回ってはいるが、差は3期連続して縮まっている。売上額は増加傾向が大幅に後退し、収益は増加から減少に大きく転じた。施工高は大幅に低下し増加から減少に転じた。受注残は増傾向が大きく後退した。請負価格と材料価格はともに前期並の水準で推移した。資金繰りは大幅に上昇し苦しい状況から容易な状況となり、借入難易度も前期同様に楽な状況が続いた。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業は前期から 4.9 ポイントの減少となった

各業種別業況の動き（実績）と来期の予測



製 造 業

※コメント中における2期分のDI値は（前期→今期）を表す。



業 況

業況DI ($\Delta 6.0 \rightarrow \Delta 9.1$) は前期比3.1ポイント減と悪化幅が幾分拡大した。全都 ($\Delta 9.0$) との比較ではわずかに全都を下回った。

業種（中分類）別では、「金属製品、建設用金属製品」は前期同様の良好感で推移し、「一般機械器具、金型」は水面下ながらかなり持ち直したが、「繊維工業、衣服・その他繊維製品」は極端に後退しマイナスに転じ、「出版、印刷、製版、製本業」は前期並の悪化幅が続いた。

売 上 額 と 収 益

売上額 ($\Delta 5.3 \rightarrow \Delta 6.0$)、受注残 ($\Delta 8.5 \rightarrow \Delta 7.7$)、収益 ($\Delta 10.0 \rightarrow \Delta 8.8$) はともに前期並の減少幅で推移した。

価 格 動 向

販売価格 ($\Delta 0.5 \rightarrow 1.3$) はわずかに上昇に転じたが、原材料価格 ($12.6 \rightarrow 15.3$) は上昇幅が若干拡大し厳しさが強まった。

資金繰り・借入金・設備投資動向

資金繰り ($\Delta 8.9 \rightarrow \Delta 10.9$) は苦しさが多少強まり、借入難易度 ($0.0 \rightarrow 4.0$) は容易な状況となった。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業 ($11.7\% \rightarrow 10.0\%$) は前期から1.7ポイントの減少となった。

経営上の問題点・重点経営施策

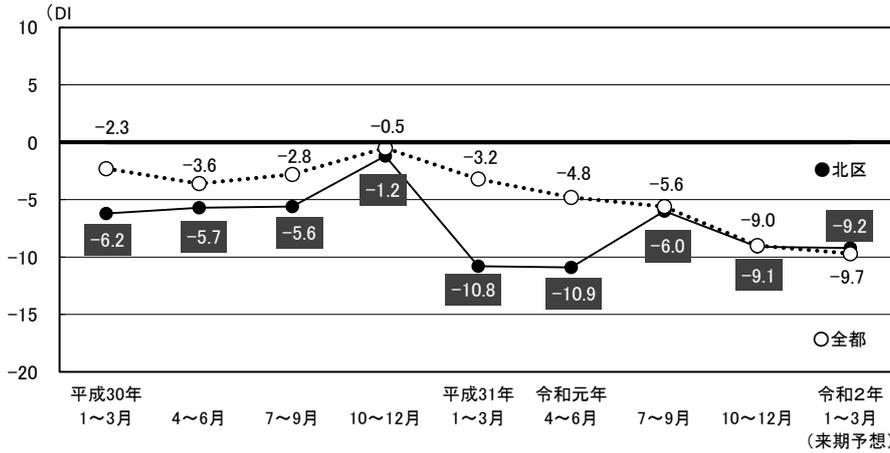
経営上の問題点は、「同業者間の競争の激化」(41.1%) が今期は最多となり、以下、「売上の停滞・減少」(39.3%)、「利幅の縮小」(22.3%)、「人手不足」(16.1%)、「大手企業との競争の激化」(12.5%) の順となった。

重点経営施策は、「販路を広げる」(65.2%) が引続き最多となり、以下、「経費を節減する」(43.8%)、「情報力を強化する」(16.1%)、「新製品・技術を開発する」、「人材を確保する」(各 13.4%) の順となった。

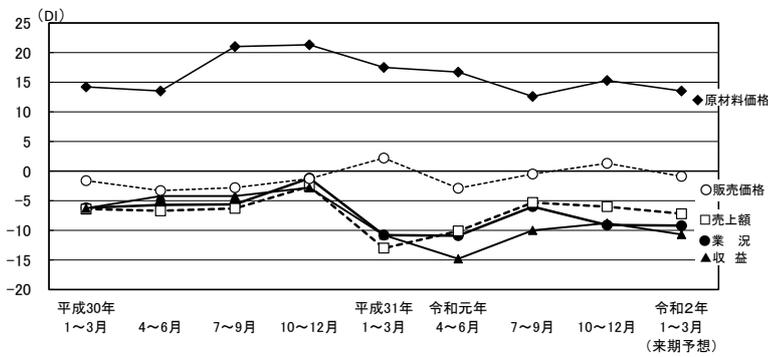
来 期 の 見 通 し

来期の見通しについて、業況 ($\Delta 9.2$ 予測) は今期同様の悪化幅で推移すると見込まれている。売上額 ($\Delta 7.2$ 予測) は今期並の減少幅で推移し、受注残 ($\Delta 11.5$ 予測) と収益 ($\Delta 10.7$ 予測) はともに減少傾向がわずかに強まると予想している。価格面では、販売価格 ($\Delta 0.9$ 予測) は再びわずかに下降に転じ、原材料価格 (13.5 予測) は今期並の上昇幅で推移すると見込まれている。

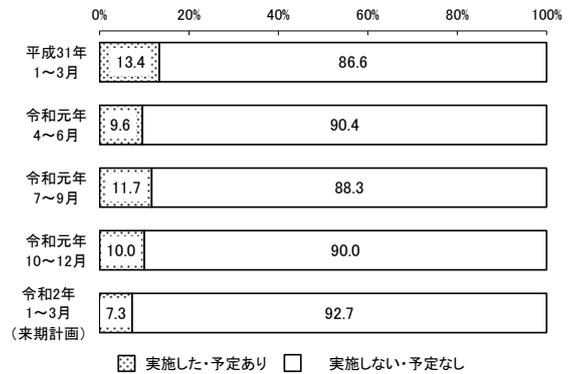
製造業 北区と全都の業況の動き（実績）と来期の予測



売上額、販売価格、収益の動き（実績）と来期の予測



設備投資動向



経営上の問題点

| | H31年1～3月期 | | H31年4月～令和元年6月期 | | 令和元年7～9月期 | | 令和元年10～12月期 | |
|-------|------------|-------|---------------------|-------|----------------------|-------|-------------|-------|
| 上位5項目 | 売上の停滞・減少 | 46.2% | 売上の停滞・減少 | 40.5% | 売上の停滞・減少 | 36.9% | 同業者間の競争の激化 | 41.1% |
| | 同業者間の競争の激化 | 33.6% | 同業者間の競争の激化 | 34.5% | 同業者間の競争の激化 | | 売上の停滞・減少 | 39.3% |
| | 利幅の縮小 | 30.3% | 利幅の縮小 | 28.4% | 利幅の縮小 | 22.5% | 利幅の縮小 | 22.3% |
| | 人手不足 | 14.3% | 人手不足 | 13.8% | 大手企業との競争の激化 | 11.7% | 人手不足 | 16.1% |
| | 原材料高 | | 原材料高 大手企業との競争の激化 | 12.9% | 人手不足 工場・機械の狭小・老朽化 | 10.8% | 大手企業との競争の激化 | 12.5% |

重点経営施策

| | H31年1～3月期 | | H31年4月～令和元年6月期 | | 令和元年7～9月期 | | 令和元年10～12月期 | |
|-------|-------------|-------|----------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|
| 上位5項目 | 販路を広げる | 68.9% | 販路を広げる | 64.7% | 販路を広げる | 67.6% | 販路を広げる | 65.2% |
| | 経費を節減する | 44.5% | 経費を節減する | 40.5% | 経費を節減する | 47.7% | 経費を節減する | 43.8% |
| | 情報力を強化する | 18.5% | 新製品・技術を開発する | 17.2% | 情報力を強化する | 15.3% | 情報力を強化する | 16.1% |
| | 新製品・技術を開発する | 13.4% | 情報力を強化する | 15.5% | 新製品・技術を開発する | 14.4% | 新製品・技術を開発する | 13.4% |
| | 人材を確保する | | 人材を確保する | 13.8% | 人材を確保する | 8.1% | 人材を確保する | |

業種別動向

繊維工業、衣服・その他繊維製品

業況（32.8→△9.3）は極端に後退しマイナスに転じた。売上額（△18.9→△6.5）と収益（△24.6→△12.8）は水面下ながら大幅に改善し、販売価格（△14.8→2.2）は大きく持ち直してマイナスから上昇に転じた。原材料価格（1.1→3.0）は落着きを見せている。

来期の予測は、売上額と収益は大幅に持ち直し、売上額は水面下を脱するとみている。価格面では、販売価格は上昇から下降に転じ、原材料価格はわずかに上昇が強まるとみている。業況は悪化傾向が大幅に強まるとみている。

出版、印刷、製版、製本業

業況（△20.0→△18.8）は前期並の悪化幅で推移した。売上額（△16.5→△14.0）はわずかに持ち直したが、収益（△17.8→△18.0）は前記同様の低下基調が続いた。販売価格（△0.6→0.7）はほぼ横這いで推移したが、原材料価格（9.4→13.0）は上昇が若干強まった。

来期の予測は、売上額は今期並の減少幅で推移するが、収益は大幅に減少を強めるとみている。価格面では、販売価格はほぼ横這いで推移し、原材料価格は若干上昇が弱まるとみている。業況は今期同様の悪化幅が続くとみている。

金属製品、建設用金属製品

業況（6.1→7.3）は前期同様の良好感で推移した。売上額（10.2→4.9）は増加傾向が幾分後退したが、収益（△4.1→0.9）は改善しわずかにプラスに転じ、販売価格（△2.7→11.2）は持ち直して大きく上昇に転じた。原材料価格（17.6→33.6）は大幅に上昇が強まった。

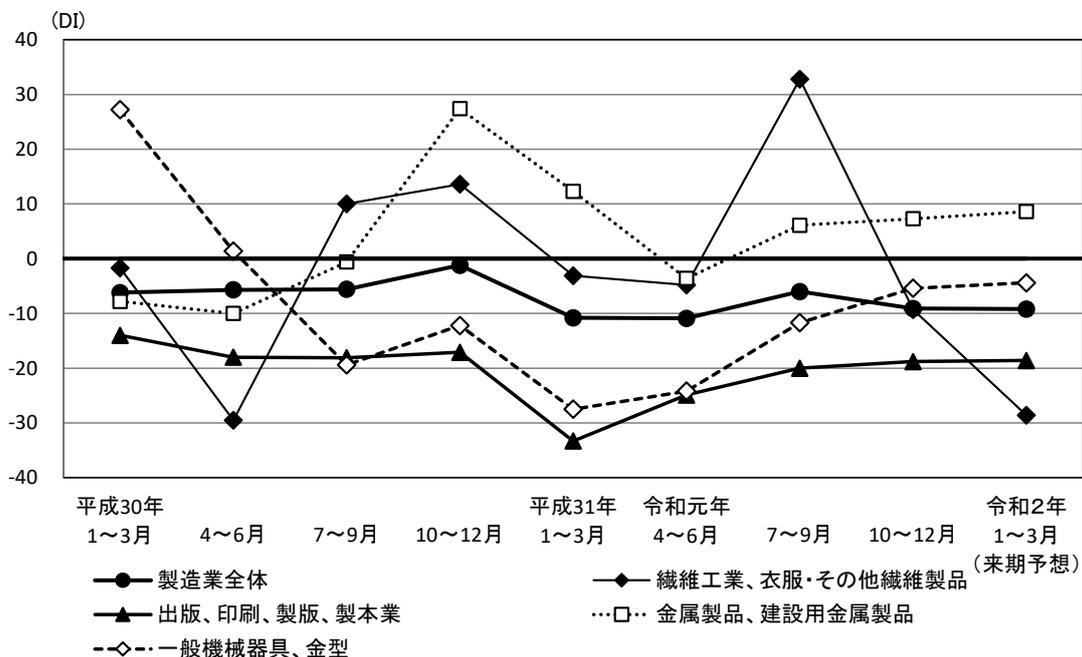
来期の予測は、売上額は増加傾向をかなり強めるが、収益は減少に大きく落ち込むとみている。価格面では、販売価格は増勢が大きく後退し一服するとみており、原材料価格は上昇が多少強まるとみている。業況は今期同様の水準で推移するとみている。

一般機械器具、金型

業況（△11.7→△5.4）は水面下ながらかなり持ち直した。売上額（△9.1→△5.8）はわずかに改善したが、収益（△14.5→△13.3）は前期並の減少幅が続いた。販売価格（△10.1→0.3）は大幅に改善し上昇にわずかに転じた。原材料価格（△5.0→26.6）は極端に上昇し厳しい状況となった。

来期の予測は、売上額はわずかに持ち直し、収益も大きく改善しプラスに転じるとみている。価格面では、販売価格、原材料価格ともに今期同様の水準で推移すると予想している。業況は今期同様の悪化幅が続くとみている。

【製造業】業種中分類別の業況の動き（実績）と来期の予測



小 売 業



※コメント中における2期分のDI値は(前期→今期)を表す。

業 況

業況DI($\Delta 20.2 \rightarrow \Delta 19.1$)は前期比1.1ポイント増でほぼ前期並みの悪化幅で推移した。全都($\Delta 18.8$)との比較では北区がわずかに下回っている。

業種(中分類)別では、「飲食店」は水面下ながら大きく持ち直し、「衣服、呉服、身の回り品」もわずかに改善したが、「飲料品」は悪化幅がかなり拡大した。

売 上 額 と 収 益

売上額($\Delta 10.4 \rightarrow \Delta 15.4$)は幾分減少を強め、収益($\Delta 18.8 \rightarrow \Delta 17.8$)は前期並の減少幅が続いた。

価 格 動 向

販売価格(6.6 \rightarrow 3.3)は上昇幅が幾分縮小し、仕入価格(15.9 \rightarrow 20.7)は上昇が多少強まった。

資金繰り・借入金・設備投資動向

資金繰り($\Delta 20.2 \rightarrow \Delta 18.3$)は前期同様の厳しさが続いたが、借入難易度($\Delta 14.1 \rightarrow \Delta 12.7$)は苦しさが若干和らいだ。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業(8.6% \rightarrow 1.5%)は前期から7.1ポイントの減少となった。

経営上の問題点・重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞・減少」(50.0%)が引き続き最多となり、以下、「同業者間の競争の激化」(30.6%)、「大型店との競争の激化」(27.8%)、「商店街の集客力の低下」(18.1%)、「利幅の縮小」(12.5%)の順となった。

重点経営施策は、「経費を節減する」(40.3%)が引き続き最多となり、以下、「品揃えを改善する」(36.1%)、「宣伝・広告を強化する」(23.6%)、「商店街事業を活性化させる」(20.8%)、「売れ筋商品を取り扱う」(15.3%)の順となった。

来 期 の 見 通 し

来期の見通しについて、業況($\Delta 17.0$ 予測)はわずかに持ち直すと見込まれている。売上額($\Delta 13.7$ 予測)は今期並の減少幅で推移するが、収益($\Delta 15.2$ 予測)はわずかに減少が弱まると見込まれている。価格面では、販売価格(0.7予測)はわずかに上昇が弱まり、仕入価格(16.6予測)は今期並の上昇水準で推移すると予想されている。

業種別動向

衣服、呉服、身の回り品

業況（ $\Delta 45.7 \rightarrow \Delta 39.8$ ）はわずかに改善した。売上額（ $\Delta 27.5 \rightarrow \Delta 42.5$ ）は大幅に下降し、収益（ $\Delta 42.0 \rightarrow \Delta 40.5$ ）は前期並の減少幅で推移した。販売価格（ $6.4 \rightarrow \Delta 13.4$ ）は上昇から下降に大きく転じたが、仕入価格（ $2.6 \rightarrow \Delta 1.0$ ）は上昇から下降にわずかに転じて好感が出てきた。

来期の予測は、売上額と収益は水面下ながら極端に改善するとみている。価格面では、販売価格は下降幅が大きく縮小し、仕入価格は大きく下降し好感が強まるとみている。業況は厳しさが大きく和らぐとみている。

飲食店

業況（ $\Delta 9.3 \rightarrow \Delta 2.4$ ）は水面下ながら大きく持ち直した。売上額（ $\Delta 11.8 \rightarrow \Delta 4.0$ ）と収益（ $\Delta 17.5 \rightarrow \Delta 0.4$ ）も水面下ながら大幅に改善した。販売価格（ $1.9 \rightarrow 7.3$ ）は上昇が大きく強まり、仕入価格（ $28.2 \rightarrow 18.9$ ）は上昇が大幅に弱まった。

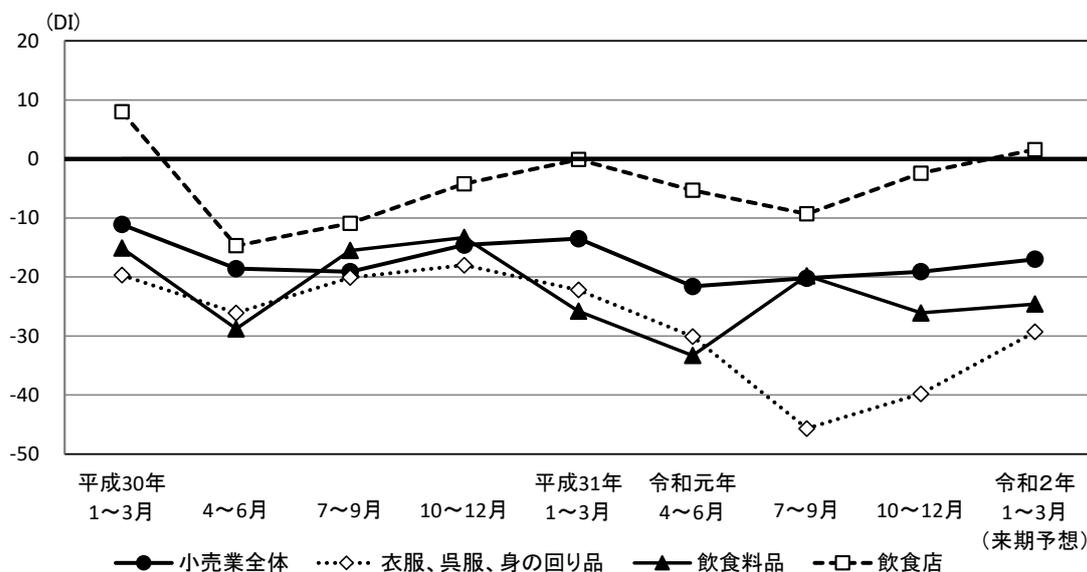
来期の予測は、売上額と収益はともに大きく改善し水面下を脱するとみている。価格面では、販売価格と仕入価格はともに今期並の上昇幅で推移すると予想している。業況は持ち直してプラスに転じるとみている。

飲食料品

業況（ $\Delta 19.8 \rightarrow \Delta 26.1$ ）は悪化幅がかなり拡大し、売上額（ $\Delta 4.3 \rightarrow \Delta 17.3$ ）と収益（ $\Delta 15.2 \rightarrow \Delta 24.3$ ）も大幅に減少傾向を強めた。販売価格（ $10.0 \rightarrow 12.5$ ）はわずかに上昇し、仕入価格（ $22.1 \rightarrow 33.8$ ）は上昇を大きく強めた。

来期の予測は、売上額は今期並の減少幅が続くが、収益は多少改善するとみている。価格面では、販売価格と仕入価格はともに上昇が大幅に弱まるとみている。業況は今期並の悪化水準で推移するとみている。

【小売業】業種中分類別の業況の動き（実績）と来期の予測



サービス業



※コメント中における2期分のDI値は(前期→今期)を表す。

業況

業況DI ($\Delta 21.9 \rightarrow \Delta 17.9$) は前期比4.0ポイント増と多少持ち直した。全都 ($\Delta 2.6$) との比較では21期連続して北区が下回っている。

売上額と収益

売上額 ($\Delta 16.0 \rightarrow \Delta 15.7$) は前期並の減少幅で推移したが、収益 ($\Delta 16.4 \rightarrow \Delta 10.3$) はかなり改善した。

価格動向

料金価格 (1.0→11.0) は大幅に上昇を強めたが、材料価格 (5.9→14.9) も大きく上昇し厳しさが強まった。

資金繰り・借入金・設備投資動向

資金繰り ($\Delta 9.2 \rightarrow \Delta 17.1$) と借入難易度 ($\Delta 6.7 \rightarrow \Delta 12.9$) はともに苦しさが大きく強まった。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業 (14.3%→11.8%) は前期から2.5ポイントの減少となった。

経営上の問題点・重点経営施策

経営上の問題点は、「同業者間の競争の激化」(40.0%) が今期も最多となった。以下、「売上の停滞・減少」(34.3%)、「人件費の増加」(20.0%)、「利幅の縮小」(8.6%)、「材料価格の上昇」、「商圈人口の減少」、「合理化の不足」、「天候の不順」(各5.7%) の順となった。

重点経営施策は、「経費を節減する」(37.1%) が今期も最多となった。以下、「販路を広げる」(34.3%)、「宣伝・広告を強化する」(28.6%)、「人材を確保する」(11.4%)、「技術力を強化する」、「店舗・設備を改装する」(各8.6%) の順となった。

来期の見通し

来期の見通しについて、業況 ($\Delta 18.1$ 予測) は今期並の悪化幅で推移すると予想している。売上額 ($\Delta 23.2$ 予測) と収益 ($\Delta 20.3$ 予測) はともに大きく減少減益を強めると見込まれている。価格面では、料金価格 (7.0 予測) は上昇が若干弱まり、材料価格 (16.4 予測) は今期並の上昇水準で推移すると見込まれている。

建設業



※コメント中における2期分のDI値は(前期→今期)を表す。

業況

業況DI(9.9→8.9)は前期比1.0ポイント減と前期同様の水準が続いた。全都(13.6)と比較すると下回ってはいるが、差は3期連続して縮まっている。

売上額と収益

売上額(21.2→3.1)は増加傾向が大幅に後退し、収益(1.4→△6.1)は増加から減少に大きく転じた。

受注残・施工高

施工高(10.5→△5.2)は大幅に低下し増加から減少に転じた。受注残(17.0→0.7)は増加傾向が大きく後退した。

価格動向

請負価格(1.9→1.0)と材料価格(22.8→23.6)はともに前期並の水準で推移した。

資金繰り・借入金・設備投資動向

資金繰り(△2.1→7.3)は大幅に上昇し苦しい状況から容易な状況となり、借入難易度(8.1→9.1)も前期同様に楽な状況が続いた。設備投資を「実施した・予定あり」とした企業(18.4%→13.5%)は前期から4.9ポイントの減少となった。

経営上の問題点・重点経営施策

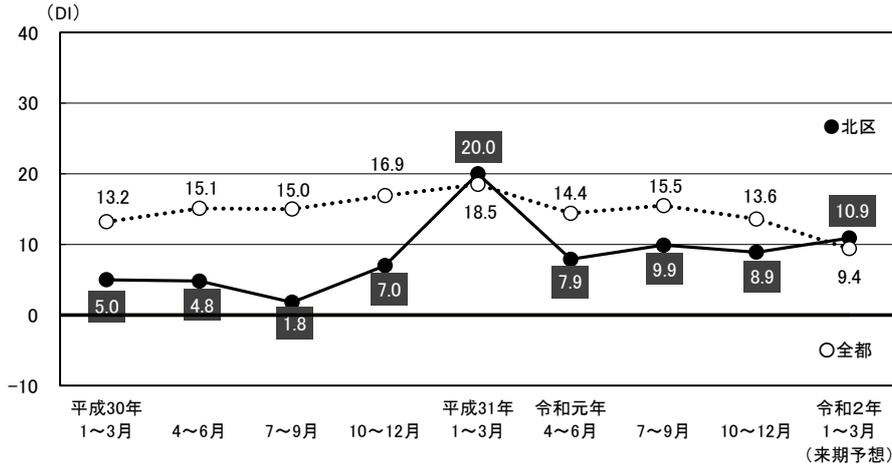
経営上の問題点は、「人手不足」(43.2%)が今期は最多となった。以下、「同業者間の競争の激化」(37.8%)、「売上の停滞・減少」(35.1%)、「材料価格の上昇」(21.6%)、「人件費の増加」(18.9%)の順となった。

重点経営施策は、「経費を節減する」(48.6%)が今期も最多となった。以下、「販路を広げる」(37.8%)、「人材を確保する」(35.1%)、「技術力を高める」(24.3%)、「情報力を強化する」(18.9%)の順となった。

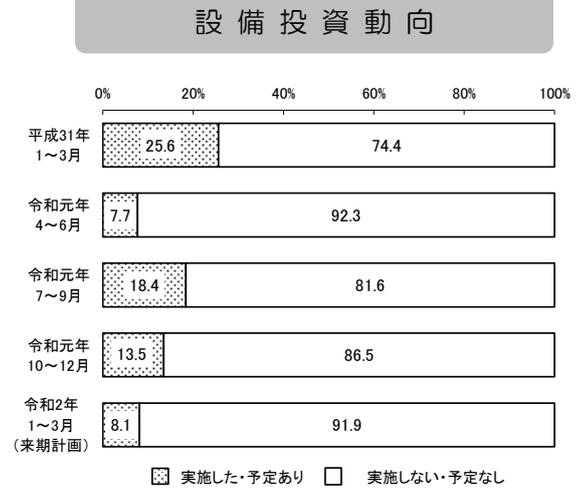
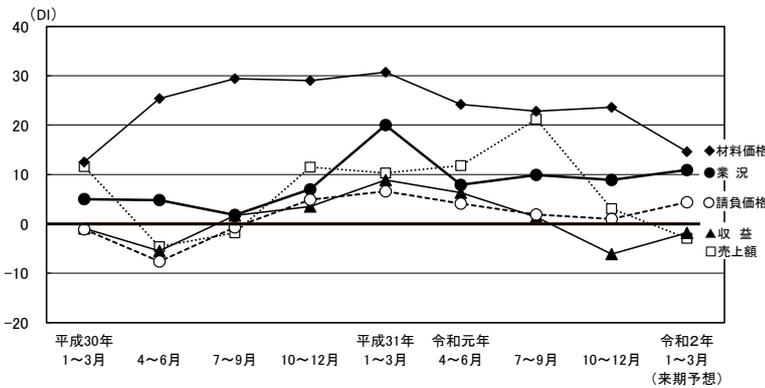
来期の見通し

来期の見通しについて、業況(10.9予測)は良好感が若干強まると見込まれている。売上額(△2.9予測)は低下しわずかに水面下に落ちむが、収益(△1.8予測)は水面下ながら多少改善すると予想されている。受注残(10.6予測)は大幅に増加し、施工高(0.7予測)も大きく改善し増加に転じると見込まれている。価格面では、請負価格(4.4予測)は幾分上昇を強め、材料価格(14.6予測)は大幅に上昇が弱まると予想している。

建設業 北区と全都の業況の動き（実績）と来期の予測



売上額、請負価格、収益の動き（実績）と来期の予測



経営上の問題点

| | H31年1~3月期 | | H31年4月~令和元年6月期 | | 令和元年7~9月期 | | 令和元年10~12月期 | |
|-------|------------|-------|----------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|
| 上位5項目 | 同業者間の競争の激化 | 48.7% | 同業者間の競争の激化 | 38.5% | 同業者間の競争の激化 | 34.2% | 人手不足 | 43.2% |
| | 人手不足 | 38.5% | 人手不足 | 35.9% | 人手不足 | 31.6% | 同業者間の競争の激化 | 37.8% |
| | 売上の停滞・減少 | 30.8% | 売上の停滞・減少 | 25.6% | 売上の停滞・減少 | 28.9% | 売上の停滞・減少 | 35.1% |
| | 材料価格の上昇 | 20.5% | 大手企業との競争の激化 | 23.1% | 材料価格の上昇 | 26.3% | 材料価格の上昇 | 21.6% |
| | 人件費の増加 | | 材料価格の上昇 | 17.9% | 大手企業との競争の激化 | 21.1% | 人件費の増加 | 18.9% |

重点経営施策

| | H31年1~3月期 | | H31年4月~令和元年6月期 | | 令和元年7~9月期 | | 令和元年10~12月期 | |
|-------|-----------|-------|----------------|-------|-----------|-------|-------------|-------|
| 上位5項目 | 経費を節減する | 59.0% | 経費を節減する | 48.7% | 経費を節減する | 52.6% | 経費を節減する | 48.6% |
| | 販路を広げる | 43.6% | 販路を広げる | 38.5% | 販路を広げる | 44.7% | 販路を広げる | 37.8% |
| | 人材を確保する | 33.3% | 人材を確保する | 28.2% | 人材を確保する | 28.9% | 人材を確保する | 35.1% |
| | 技術力を高める | 28.2% | 技術力を高める | 25.6% | 技術力を高める | 23.7% | 技術力を高める | 24.3% |
| | 情報力を強化する | 23.1% | 情報力を強化する | 20.5% | 情報力を強化する | 21.1% | 情報力を強化する | 18.9% |

- 注1. 本調査は、北区の状況について記載している。グラフでは東京都全体の数値を参考に併記している。
 注2. 北区の数値は全6業種全体のものであるが、業種別の比較については「卸売業」と「不動産業」の北区の対象事業所が少ないため、この2業種を除いた「製造業」「小売業」「サービス業」「建設業」の4業種についてのみ分析している。
 注3. 回答により100%にならないこともある。

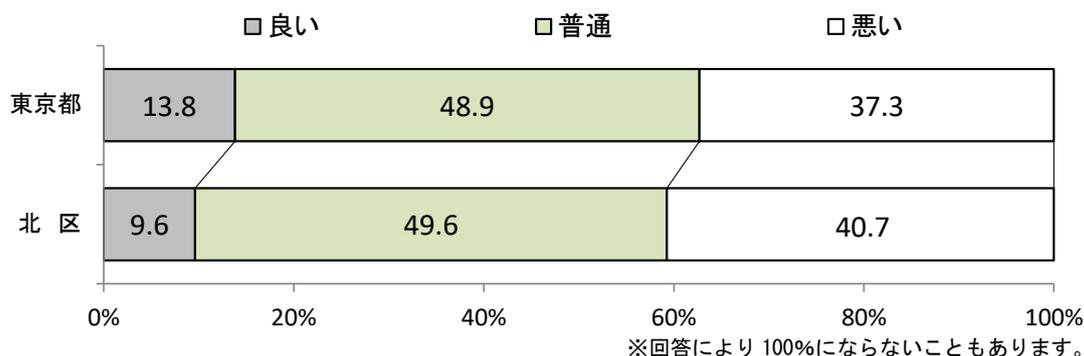
| | |
|-----------------------|--|
| ① 2020年の日本の景気見通し | 『良い』が9.6%（前年比△0.6）、『悪い』が40.7%（前年比△3.9） |
| ② 2020年の自社の業況見通し | 『良い』が5.4%（前年比△3.2）、『悪い』が36.8%（前年比6.0） |
| ③ 自社の売上額の対前年比の伸び率の見通し | 『増加』が14.7%（前年比△0.7）、『減少』が30.3%（前年比7.0） |
| ④ 自社の業況が上向く転換点の見通し | 『短期』22.7%、『中期』18.8%、『長期』58.5% |
| ⑤ 見通しと比べ消費税引上げ後に受けた影響 | 『良い影響』2.5%、『変わらない』75.6%、『悪い影響』19.7% |

問1. 2020年の日本の景気見通しについて

北区の中小企業を対象に2020年の経営見通しについてうかがったところ、『良い』（「非常に良い」「良い」「やや良い」の和）とした企業は9.6%で、前回調査（10.2%）から0.6ポイント減少した。一方、『悪い』（「非常に悪い」「悪い」「やや悪い」の和）は40.7%で前回調査（44.6%）から3.9ポイント減少した。なお、「普通」は49.6%（前回は45.1%）であった。

業種別に見ると、『良い』とする企業は“建設業”（13.5%）が高く、以下“製造業”（10.7%）、“サービス業”（8.6%）、“小売業”（7.0%）と続いた。一方『悪い』は“小売業”（44.4%）が最も高く、以下“製造業”（38.4%）、“サービス業”（40.0%）、建設業”（32.4%）の順であった。

従業者規模別に見ると、特に特徴的な傾向は見られなかった。

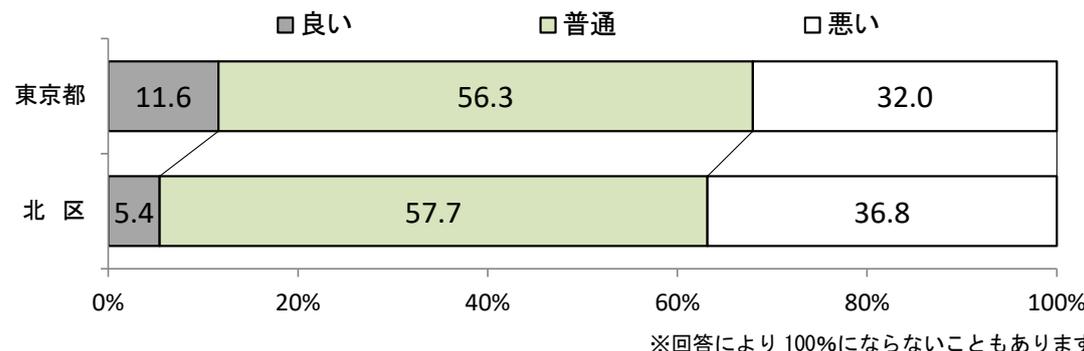


問2. 2020年の自社の業況見通しについて

自社の業況見通しについては、『良い』（「非常に良い」「良い」「やや良い」の和）とした企業は5.4%で、前回調査（8.6%）から3.2ポイント減少した。一方、『悪い』（「非常に悪い」「悪い」「やや悪い」の和）は前回調査（30.8%）から6.0ポイント増加し36.8%であった。なお、「普通」は57.7%（前回は60.6%）であった。

業種別に見ると、『良い』とする業種は、“サービス業”が8.6%で最も高く、以下“建設業”（8.3%）、“製造業”（4.5%）、“小売業”（4.3%）と続いた。一方、『悪い』は“小売業”（44.9%）が最も高く、以下“サービス業”（40.0%）、“製造業”（31.9%）、“建設業”（27.7%）と続いた。

従業者規模別に見ると、『普通』は従業員規模が大きくなるほど割合が高くなり、『悪い』は従業員規模が小さくなるほど割合が高くなる傾向が見られた。

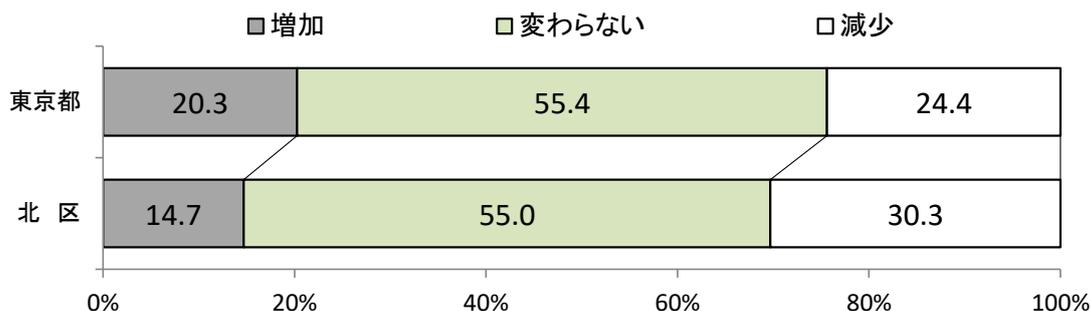


問3. 2020の売上額伸び率の見通しについて

売上の『増加』を予想している企業は14.7%で、前回調査（15.4%）から0.7ポイント減少した。一方、『減少』を予想している企業は30.3%で、前回調査（23.3%）から7.0ポイント増加した。また、「変わらない」は55.0%（前回は61.3%）であった。

業種別に見ると、『増加』を予想する業種は、高い順に“サービス業”（20.0%）、“製造業”（16.1%）、“建設業”（13.5%）、“小売業”（11.1%）であった。一方、『減少』は“小売業”が34.8%で最も高く、以下“建設業”（29.7%）、“サービス業”（28.6%）、“製造業”（27.6%）と続いた

従業者規模別に見ると、『増加』は従業員規模が大きくなるほど割合が高くなる傾向が見られた。



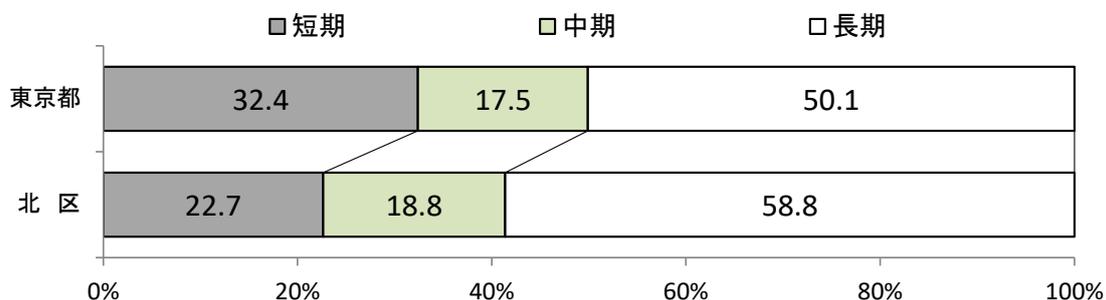
※回答により100%にならないこともあります。

問4. 自社の業況が上向く転換点の見通しについて

自社の業況が『短期』（「すでに上向いている」「6ヶ月以内」「1年後」の和）で上向くと回答した企業は22.7%となり、前回調査（24.0%）に比べ1.3ポイント減少した。『中期』（「2年後」「3年後」の和）と回答した企業は18.8%で、前回調査（20.2%）に比べ1.4ポイント減少した。『長期』（「3年超」「業況改善の見通しは立たない」の和）と回答した企業は58.5%で、前回調査（55.9%）と比べ2.6ポイント増加した。

業種別に見ると、『短期』で上向くと見る業種は高い順に“建設業”（40.5%）、“サービス業”（20.6%）、“製造業”（19.8%）、“小売業”（14.0%）となっており、『中期』も、“建設業”（29.7%）が最も高い割合であった。『長期』を予想する企業は、“小売業”（73.3%）、“サービス業”（67.6%）、“製造業”（56.7%）、“建設業”（29.7%）の順であった。

従業者規模別に見ると、『長期』は従業員規模が小さくなるほど割合が高くなり、『中期』は従業員数が5人以上の企業が2割半ば以上なのに対し、4人以下の企業は1割未満と低い傾向が見られた。



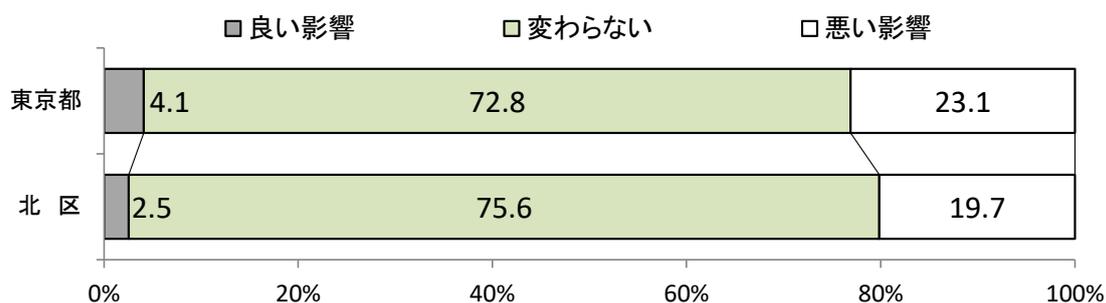
※回答により100%にならないこともあります。

問5. 見通しと比べた消費税引上げ後の貴社の経営の影響について

消費税引上げ後の経営の影響について、『見通しより良い影響』と考える企業は 2.5%となった。一方、『見通しより悪い影響』は 19.7%、『変わらない』は 75.6%であった。

業種別に見ると、『見通しより良い影響』とする業種は“小売業”が 7.0%で最も高く、以下“サービス業”（5.9%）となった。“製造”と“建設業”はともに 0%となった。一方、『見通しより悪い』とする企業では、“小売業”が 25.0%で最も高く、以下“サービス業”（23.5%）、“製造業”（14.3%）、“建設業”（13.5%）と続いた。

従業者規模別に見ると、特に特徴的な傾向は見られなかった。



※回答により 100%にならないこともあります。

サービス業（令和元年10月～12月期）

建設業（令和元年10月～12月期）

[今期の景況]

| | | 全体 | |
|---------|--------------|-----|-----|
| | | 北区 | 全都 |
| 業況 | | -18 | -3 |
| 売上額 | | -16 | -1 |
| 収益 | | -10 | -2 |
| 料金価格 | | 11 | 7 |
| 材料価格 | | 15 | 15 |
| 資金繰り | | -17 | -6 |
| | | | |
| | | | |
| 雇用 | 残業時間 | -6 | 0 |
| | 人手 | -3 | -23 |
| 同期比 | 売上額 | -14 | 0 |
| | 収益 | -14 | -2 |
| 経営上の問題点 | ① 同業者間の競争の激化 | 40 | 35 |
| | ② 売上の停滞・減少 | 34 | 29 |
| | ③ 人件費の増加 | 20 | 18 |
| | ④ 利幅の縮小 | 9 | 11 |
| | ⑤ 天候の不順 | 6 | 5 |
| 重点経営施策 | ① 経費を節減する | 37 | 36 |
| | ② 販路を広げる | 34 | 37 |
| | ③ 宣伝・広告を強化する | 29 | 20 |
| | ④ 人材を確保する | 11 | 25 |
| | ⑤ 技術力を強化する | 9 | 13 |
| 借入の難易度 | | -13 | 0 |

[今期の景況]

| | | 全体 | |
|---------|--------------|-----|-----|
| | | 北区 | 全都 |
| 業況 | | 9 | 14 |
| 売上額 | | 3 | 13 |
| 受注残 | | 1 | 13 |
| 施工高 | | -5 | 12 |
| 収益 | | -6 | 8 |
| 請負価格 | | 1 | 9 |
| 材料価格 | | 24 | 32 |
| 在庫 | | 5 | 0 |
| 資金繰り | | 7 | -1 |
| 雇用 | 残業時間 | -6 | 5 |
| | 人手 | -19 | -34 |
| 同期比 | 売上額 | 0 | 14 |
| | 収益 | 3 | 9 |
| 経営上の問題点 | ① 人手不足 | 43 | 44 |
| | ② 同業者間の競争の激化 | 38 | 27 |
| | ③ 売上の停滞・減少 | 35 | 21 |
| | ④ 材料価格の上昇 | 22 | 19 |
| | ⑤ 人件費の増加 | 19 | 13 |
| 重点経営施策 | ① 経費を節減する | 49 | 40 |
| | ② 販路を広げる | 38 | 38 |
| | ③ 人材を確保する | 35 | 42 |
| | ④ 技術力を高める | 24 | 21 |
| | ⑤ 情報力を強化する | 19 | 17 |
| 借入の難易度 | | 9 | 7 |

[来期の景況見通し]

| | | | |
|------|------|-----|-----|
| 業況 | | -18 | -2 |
| 売上額 | | -23 | -1 |
| 収益 | | -20 | -3 |
| 料金価格 | | 7 | 5 |
| 材料価格 | | 16 | 13 |
| 資金繰り | | -20 | -6 |
| | | | |
| 雇用 | 残業時間 | -6 | -1 |
| | 人手 | -6 | -22 |

[来期の景況見通し]

| | | | |
|------|------|-----|-----|
| 業況 | | 11 | 9 |
| 売上額 | | -3 | 6 |
| 受注残 | | 11 | 7 |
| 施工高 | | 1 | 6 |
| 収益 | | -2 | 2 |
| 請負価格 | | 4 | 5 |
| 材料価格 | | 15 | 25 |
| 在庫 | | 1 | -1 |
| 資金繰り | | 2 | -2 |
| 雇用 | 残業時間 | -8 | 1 |
| | 人手 | -14 | -33 |

* 季節変動調整済DIを表示している項目。業況、売上額、受注残、収益、販売価格、原材料価格、原材料在庫、資金繰り

* 単純DIを表示している項目。雇用面、同期比、借入の難易度

* 企業割合(%)を表示している項目。経営上の問題点、重点経営施策

調 査 の 概 要

- 1 調査機関 一般社団法人東京都信用金庫協会 業務部地域振興課
- 2 調査方法 信用金庫営業店から企業へ直接面接調査
- 3 調査時期 令和元年 10 月期～12 月期を対象に令和元年 12 月上旬に実施
- 4 実施状況 257 事業所
- 5 未回収事業所数 1 事業所
- (内訳) 倒産・廃業 1 事業転換 0 移 転 0 不在が続く 0
調査拒否 0 取引解消 0 休 業 0 その他 0
- 6 有効回答事業所数 256 事業所 有効回答率 99.6%

[回答事業所数の規模別内訳]

(単位：事業所数・%)

| | 有効回答 事業所数 | 4人以下 | 5～9人 | 10～ 19人 | 20～ 29人 | 30～ 39人 | 40～ 49人 | 50～ 99人 | 100～ 199人 | 200～ 300人 |
|-------|--------------|---------------|--------------|--------------|-------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|
| 製 造 業 | 112 | 51 | 18 | 20 | 10 | 1 | 3 | 7 | 2 | 0 |
| 小 売 業 | 72 | 62 | 5 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| サービス業 | 35 | 27 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 建 設 業 | 37 | 17 | 8 | 5 | 2 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 業 種 計 | 256 | 157 (61.3) | 34 (13.3) | 29 (11.3) | 14 (5.5) | 6 (2.3) | 5 (2.0) | 9 (3.5) | 2 (0.8) | 0 (0.0) |

7 調査対象業種（中分類）内訳

(単位：事業所数)

| | | |
|-------|------------------|----|
| 製 造 業 | 繊維工業、衣服・その他の繊維製品 | 4 |
| | 出版業、印刷業、製版業、製本業 | 19 |
| | 金属製品、建設用・建築用金属製品 | 15 |
| | 一般機械器具、金型 | 10 |
| 小 売 業 | 衣服・呉服・身の回り品 | 7 |
| | 飲食料品 | 21 |
| | 飲食店 | 14 |

北区 中小企業の景況

令和元年度第3四半期（令和元年10月～令和元年12月）
令和2年3月発行

【調査機関】一般社団法人 東京都信用金庫協会
中央区京橋3-8-1 信用金庫会館 京橋別館 12階
TEL：03（6228）8557

【分析委託業者】株式会社 サーベイリサーチセンター
中央区日本橋3-13-5 KDX日本橋313ビル5階
TEL：03（6826）4666

【発行】北区 地域振興部産業振興課
北区王子1-11-1 北とぴあ 11階
TEL：03（5390）1234

| |
|---------|
| 刊行物登録番号 |
|---------|

| |
|----------|
| 31-2-023 |
|----------|
